

令和7年度 金沢市環境審議会 会議録

■日 時 令和7年11月28日（金） 14：00～15：00

■場 所 金沢市役所 第二本庁舎 2階 2202会議室

■出 席 者 別紙のとおり

■内 容 以下のとおり

事 務 局 ただ今から令和7年度金沢市環境審議会を開催する。

環 境 局 長 さて、今年8月7日未明、大雨の影響により、市内では浸水被害や土砂崩れ等、大きな被害が発生した。近年の地球温暖化の影響と思われる異常気象の発生は、我々の日常生活に大きな影響を与えており、地球温暖化の要因である温室効果ガスの削減は今や喫緊の課題となっている。

その中で本市では「未来を拓く世界の共創文化都市・金沢」の実現に向け、脱炭素化の推進や、ごみの減量と資源循環の推進、自然環境と安全で快適な生活環境の保全等に取り組んでいるところである。ゼロカーボンシティの実現に向けた脱炭素化の推進では、市有施設における太陽光発電設備等の導入や再エネ電力やカーボンニュートラルガスの活用を進めるとともに、ごみの減量と資源循環の推進では、今年の4月から製品プラスチックの分別収集と資源化に本格的に取り組んでいるところである。また、自然環境の保全では、汙害が顕著となっている街中のカラス対策の強化に取り組むとともに、河川水や地下水で有機フッ素化合物PFASの調査等も実施しているところである。

また、その他様々な施策においても、変化する社会情勢に応じたあり方を模索し、市民や企業の皆様にご協力を賜りながら引き続き方策を講じていく所存である。

本日は報告案件としまして、金沢市環境基本計画の進捗状況等についてご報告させていただく。限られた時間ではあるが、委員の皆様方においては、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただく。

事 務 局

- ・委員数15名のうち出席委員13名であり定足数（過半数）を満たしていることを報告
- ・新任委員の紹介
- ・欠席委員の報告
- ・以降の進行を会長に依頼

会長 本日の議事は、審議事項として「金沢市環境基本計画（第3次）の進捗状況について」「トリクロロエチレンの地下水環境基準の評価について」「有機フッ素化合物（PFOS及びPFOA）の河川水及び地下水の水質調査結果等について」の3件となっている。
会議は公開で進めたいが、よろしいか。

（異議なし）

会長 まず、報告事項(1)「金沢市環境基本計画（第3次）の進捗状況について」事務局から説明をお願いする。

事務局 (資料1について説明)

会長 事務局からの説明について意見、質問はないか。

委員 水質の環境基準の数値が場所によって異なる理由を教えていただきたい。

事務局 水質の環境基準については、河川の用途等によって石川県で指定されており、上流では厳しい数値、下流では比較的緩い数値という決め方となっている。

委員 再生可能エネルギー発電電力量について、石川県は太陽光、風力、水力、バイオマスの合計の目標値が46億kWh程度である。金沢市は、その内の3億5千kWhとのことだが、この内訳はあるのか。
また、目標値が現況地の約1.3倍であるが、太陽光、風力、水力、バイオのうちどの項目を一番の強みとして目標値を掲げているのか教えていただきたい。

事務局 再生可能エネルギーの発電電力量の内訳について、令和5年度の実績では、金沢エナジーの水力発電1億4,779万2千kWhが半分以上を占めている。バイオマス発電は、環境エネルギーセンターの約5千万kWhや県所管の犀川左岸浄化センターの発電量も一部含んでいる。太陽光発電は、各事業所の太陽光発電と各家庭の住宅用太陽光発電がある。風力発電は、太陽光エネルギー発電電力量には含まれていない。金沢市では、現状、風力発電は稼働しておらず、今後も金沢市で風力発電を行う予定はない。

委員 太陽光発電について、金沢市では、太陽光発電の設置に対する民間の動きがあるのかお聞きしたい。

事務局 金沢市では、令和5年度に再エネを推進する条例を制定した。その条例に基づき、太陽光発電設備を設置する場合は、その規模に応じた事前の届け出や審査等の手続きを求めている。条例制定前に設置された太陽光発電設備についても、毎年、維持管理報告書の提出を義務付けている。今のところ、条例の対象となる設備は、金沢大学の駐車場跡地に設置された太陽光発電設備のみであり、その届け出については、適正な計画のもとで進められている。

委員 ペロブスカイトについて、現在、ビルの壁面でペロブスカイトを使用して発電を行う場合は、条例に基いた届け出が必要であるか。

事務局 ペロブスカイトは、現在、実証実験の段階であり、社会実装が進んできた段階で周囲に影響を及ぼす状況が想定できる場合は、条例の対象にするかどうかを検討しなければいけないと思う。

委員 再生可能エネルギーについて、他自治体のデータでは順調に伸びている中で、金沢市は伸びが少し鈍いが、課題感として持っていることをお聞きしたい。

事務局 再生可能エネルギー発電電力量について、家庭用太陽光発電設備は、F I T制度による売電価格の減少があるものの、環境意識の高まり等もあり、補助件数は着実に伸びている。逆に、事業者向けの太陽光発電設備については、家庭用に比べて伸びが少ない。事業者が設置する太陽光発電設備は、家庭用よりも規模が大きく、1 件当たりの発電量も非常に大きい。そのため、金沢市では、事業者が太陽光発電設備を積極的に設置いただけるよう、対策を練っているところである。昨年度、国から交付金を受けたため、今年度から事業者に対する太陽光発電設備設置時の補助対象額や補助限度額を大幅に拡充した。また、金沢市だけでなく、石川中央都市圏域内の市町と手を組み、合同で同様の取り組みを行っているところである。

委員 事業系の太陽光発電について、全国的に地方の金融機関が事業者の経営を長期的に見た際、再生可能エネルギーの導入によって安定化すると判断し、事業者に対する融資が検討され始めている。そのため、ぜひ金融機関と連携した取り組みをご検討いただければと思う。

委員 鉄道バス利用者数の目標値について、バス路線が減っている中で、利用者数を増やすのは難しいかと思う。二酸化炭素排出量を減らす試みだと思うが、必ずしも鉄道バス利用者数が増えることが二酸化炭素排出量の減少に繋がるわけではないとも思う。目標値について、E V率や低燃

費バスの増加も加味して考えてもいいのではないか。

事務局 鉄道バス利用者数の数値目標については、CO₂ の削減という視点のほか環境基本計画における「環境への負荷が小さい町の中で公共交通の利用」という視点がある。また、交通渋滞や自動車の利用といった交通施策全般の目標値ともなっている。目標値については、新しい目標を設定する際に、ご指摘内容を交通政策を所管する部署とも情報共有しながら検討したい。

委員 ごみ排出量について、ごみ排出量が減り、1人当たりの排出量も減っているため、ごみ袋の有料化の効果が出ていると感じ、この点は評価できる。ごみの排出量が減少する中で、資源化率はどのように変化しているのか教えていただきたい。

事務局 平成29年度は11.7%であり、その後、ごみ袋の有料化により分別の徹底が図られたことから資源化率は増加した。しかし、ペーパーレス化の伸展のほか、ペットボトルや容器包装プラスチック、あき缶等の軽量化が進み、資源回収量が減少したため、相対的に資源化率も減少し、令和6年度は11.8%となっている。

なお、今年度から容器包装プラスチックに合わせて製品プラスチックの回収を始めたため、今後、少しずつ資源化率が上がってくると考えている。

委員 ホタルについて、放流後にすぐ数が増加するといった人為的な部分もあるため、ホタルで環境の豊かさを測るのは難しい部分もあるかと思う。今後、副目標や関連目標として、金沢市の準用河川等でホタル以外の指標生物がどれほどいるのかという調査を実施できればより豊かさを測れると思う。

事務局 ホタルについては、川の水の綺麗さを象徴する生き物であり、子供会の方々にご協力いただき、環境教育的な意味も含め、長年、ホタル観測調査を継続していただいている。自然の豊かさを評価する指標がホタルだけではないということは承知しているところである。どのような生物がいると自然豊かと言えるのか、我々だけでは悩むようなところがあるため、次の目標の検討時には、分野の専門の方からご指導いただきながら考えていきたい。

委員 市民ウォッチャー登録者数について、数値が非常に伸び悩んでいるように見受けられるため、どのような周知や情報提供をされているのかお聞きしたい。

事務局 市民ウォッチャーについて、主に、自然観察会でそれらに興味のある方に周知を行った。しかし、周知方法に検討が必要だということやインセンティブ等の導入が不足していると思っている。周知については、他の部局とも横断的に連携し、市民ウォッチャーの増加に努めたい。

会長 それでは報告事項(2)「トリクロロエチレンの地下水環境基準の超過について」事務局から説明をお願いする。

事務局 (資料2について説明)

会長 事務局からの説明について意見、質問はないか。
(意見等なし)

会長 それでは報告事項(3)「有機フッ素化合物（PFOS及びPFOS）の河川水及び地下水の水質調査結果等について」事務局から説明をお願いする。

事務局 (資料3について説明)

会長 事務局からの説明について意見、質問はないか。

委員 伏見川の産廃処理施設付近に排出源の可能性があるということだが、どのような産業廃棄物を処理しているのか教えていただきたい。
また、今後も調査を継続されるのかどうか教えていただきたい。

事務局 産業廃棄物処理施設は管理型埋立場であり、汚泥や鉱さい、燃え殻、がれき類といった廃棄物を多く処理している。どのような廃棄物にPFASが含まれていたのかはわかつていない。

事務局 河川水の継続監視については、事業者から行政検査への協力や自主検査の結果提供を得られていないこともあり、事業者による濃度低減対策実施の確認や濃度の季節変動の有無の確認のため、今後、年に4回、継続して検査を行うこととしている。

委員 排出水は、管理型埋立場の浸出水由来と考えているということか。

事務局 浸出水由来と考えている。

委員 PFASは飲用による健康被害を防ぐことが重要である。河川水への流出

状況も注視しながら、それによって影響を受ける可能性がある地下水の監視も定期的に行うことを検討いただきたい。

会長 以上で議事を終了し、会議次第3のその他に入る。案件に関すること、またそれ以外のことでも、ご意見ご質問等はあるか。

委員 金沢市環境基本計画の進捗状況について、目標に向かっているというより、単に数値を記録しているという印象を受ける。鉄道バス利用者数も目標値に達するために何かしらの対策をしているのか、そもそもこのような目標に取り組んでいることは知られているのかが気になる。ごみの排出量は順調に減少しているように見えるが、近年は、横ばい状態である。平成30年は大幅に減少したが、なぜ減少したのかという原因の分析が必要ではないかと思う。ホタルの観測地点数についても、観測地点が多いことがすなわち環境に良いことを示しているわけではないため、ホタルの観測地点数が多いということが意味してるのは何なのかをきちんと解析し、伝えなければいけない。

事務局 ご指摘いただいたとおり、何を実施し数値が伸びたのか等の評価が不足しているかと思う。今後、説明するときには、どのように評価したかという内容を含めてご説明できるよう改善したい。
また、毎年、さらに詳しくした内容をかなざわの環境という冊子にまとめ、ホームページ等で掲載している。この中で、どのような評価をしているのかを皆さんに知っていただくため、改善していくよう努力して参りたい。

委員 再生可能エネルギーについて、金沢市の温暖化対策区域施策編で設定されている目標値について、2030年の目標に対する中間目標は定めているのか教えていただきたい。
また、区域施策編の中で、様々な施策が提案されているが、その施策の目標値に対する達成度が年次報告書で読み取れないと、中間目標の設定について教えていただきたい。

事務局 金沢市の計画の数値目標については、中間目標は設定していない。ただ、今回、国で基本計画の見直し等があったため、それに合わせて来年度、金沢市でも計画の見直しを行わなければならないと考えている。その際、改めて数値目標を設定することになるかと思う。それぞれの施策ごとの数値について、温室効果ガスの排出量等は、市の取り組みに対する数値的成果が掴みづらいのが現状である。そのため、年次報告書では、具体的にCO₂がどれだけ減ったのかという記載はできていない。空気は見えないものであるため、計画の見直しや年次報告の際には、可能な

限り見える化を意識し、わかりやすく報告していきたい。

委 員 資料 3について、事業者から検査への協力を得ていないという話があつたが、事業者が協力しないというのは可能なのか。
また、ホタルの観測地点について、観測地点はどのようにカウントしているのか。

事 務 局 事業者からは、排出水中のPFOS等については法的規制がなく、検査義務や排出基準もない中で、行政検査の実施や任意に実施した検査の結果を提供することは事業への影響が大きく協力できないと聞いている。ただ、社会的な問題であるため、継続的に事業者と協議し、検査の実施要請や対策を進めていきたい。

事 務 局 ホタルの観測地点については、10匹で1地点としてカウントしている。今年度は、10匹以上観測された地点数は減少したが、1匹で観測された地点数は増加しているという結果であった。

委 員 金沢市環境基本計画の進捗状況について、市民の環境保全に対する意識の向上が非常に大切だと思う。温室効果ガスや鉄道バス利用者数、ごみの排出量等は環境保全の意識が高まることに伴い、数値が良くなるのではないかと思う。そのため、市民への啓発活動や意識向上を図るためにイベント等の取り組みをさらに強化していくべきだと思う。

事 務 局 市民の意識向上について、最近は、計画を策定後、e モニターで意識調査を実施し評価している計画も多くある。環境基本計画（第3次）には、そのような評価の指標は無いが、今後、皆様がどのような意識を持っているのか評価できる仕組みを取り入れていきたい。

事 務 局 イベントについては、毎年10月にかなざわエコフェスタを開催している。ここ数年は金沢市第二本庁舎で開催しているが、毎年、千人以上の方々が訪れている。かなざわエコフェスタの出し物を通して環境保全の意識付けを図り、そこで得た情報を生かして家庭での省エネ活動の実践に繋げていただけたらと思う。また、毎年、アンケート調査を実施しており、調査内容に沿ったイベントを実施していきたい。

事 務 局 ごみに関する啓発については、大人から子供まで幅広い年齢層に対して出前講座や体験型の教室を開催している。その中でも、小さい頃からの教育が非常に重要と考えているため、本市においては、毎年、保育所や幼稚園、小学校に向けて実際に収集車を見せながらごみの分別やごみを減らすことの大切さを啓発している。

会長 その他、ご意見ご質問はあるか。
意見がないため、進行を事務局にお返しする。

事務局 長時間にわたるご議論に感謝申し上げる。
以上で令和7年度金沢市環境審議会を終了する。

(別 紙)

令和7年度金沢市環境審議会出席者 (敬称略)

| | | |
|-----|--------|--|
| 会長 | 長谷川 浩 | (金沢大学理工研究域物質化学系教授) |
| 副会長 | 本多 了 | (金沢大学理工研究域地域社会基盤学系教授) |
| | 磐田 朋子 | (芝浦工業大学副学長) |
| | 上田 久美子 | (金沢市校下婦人会連絡協議会副会長) |
| | 奥井 めぐみ | (金沢学院大学経済学部経済学科教授) |
| | 川崎 朱美子 | (公募) |
| | 坂本 修一 | (連合石川金沢地域協議会事務局長) |
| | 坂本 貴啓 | (金沢大学人間社会域地域創造学系講師) |
| | 甚田 和幸 | (金沢市町会連合会副会長) |
| | 中野 真理子 | (石川県自然史資料館副館長) |
| | 畠 光彦 | (金沢大学理工研究域地球社会基盤学系教授) |
| | 枡田 和枝 | (金沢エコライフくらぶ) |
| | 宮田 芳昭 | (石川県生活環境部環境政策課課長補佐 石川県生活環境部長 成瀬英之委員の代理出席) |

※欠席者

| | |
|-------|---------------------|
| 藤井 文祥 | (金沢商工会議所環境問題委員会委員長) |
| 山㟢 妙子 | (公募) |

(事務局出席者)

| | |
|-------|-----------------------|
| 越山 充 | (金沢市環境局長) |
| 川端 淑愛 | (金沢市環境局環境政策課長) |
| 三傳 敏一 | (金沢市環境局ゼロカーボンシティ推進課長) |
| 宮村 浩一 | (金沢市環境局ごみ減量推進課長) |
| 山口 浩之 | (金沢市環境局施設管理課長) |
| 西村 友美 | (金沢市環境局環境政策課長補佐) |
| 東 良憲 | (金沢市環境局環境政策課企画庶務係長) |
| 青木 祥 | (金沢市環境局環境政策課環境保全係長) |
| 長屋 直実 | (金沢市環境局環境政策課主事) |